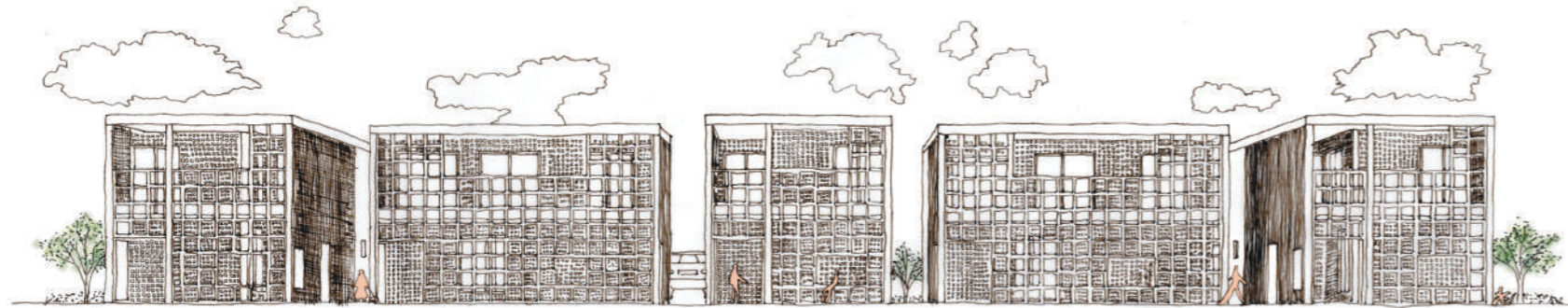


共存共栄 - 格子が紡ぐ公私 -



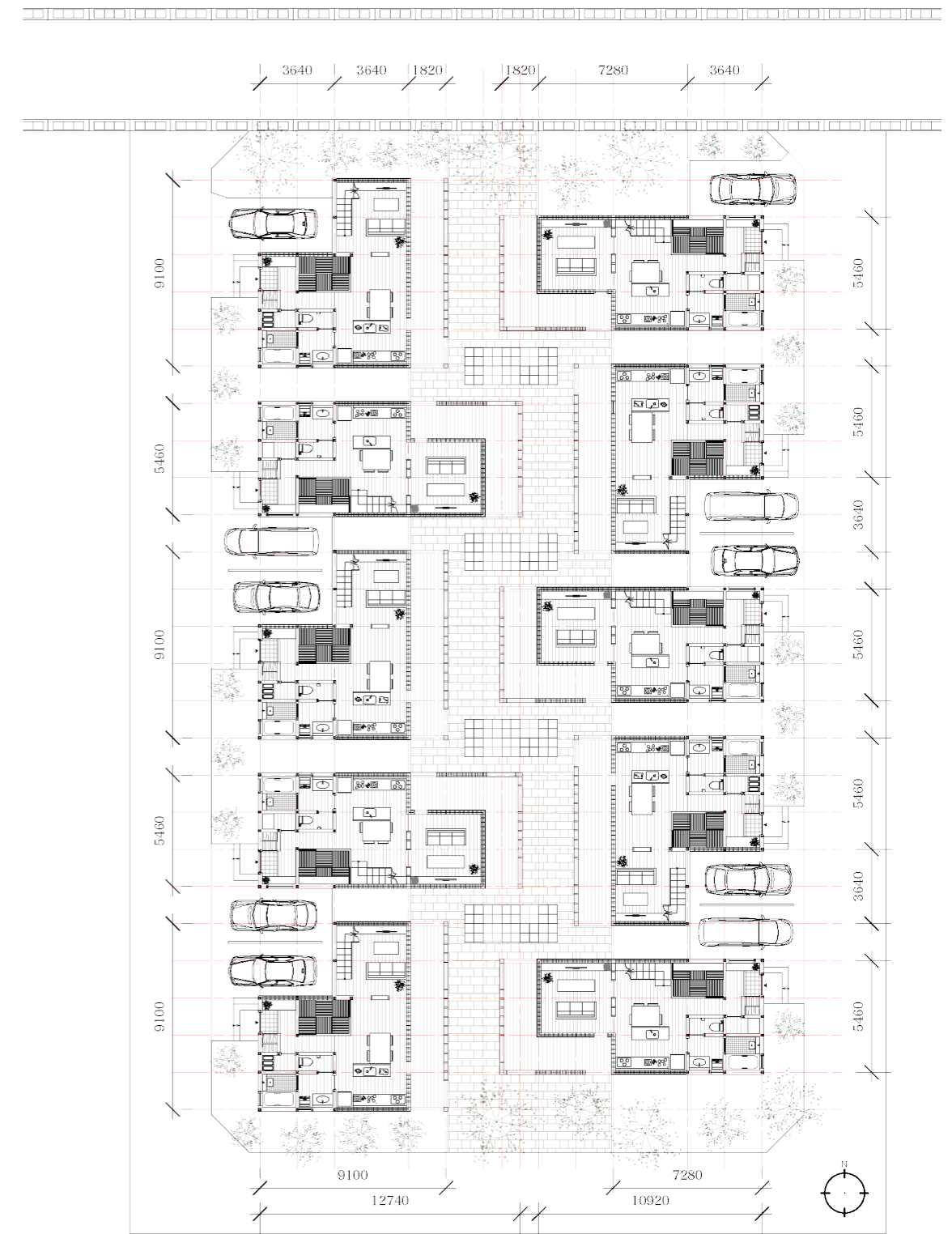
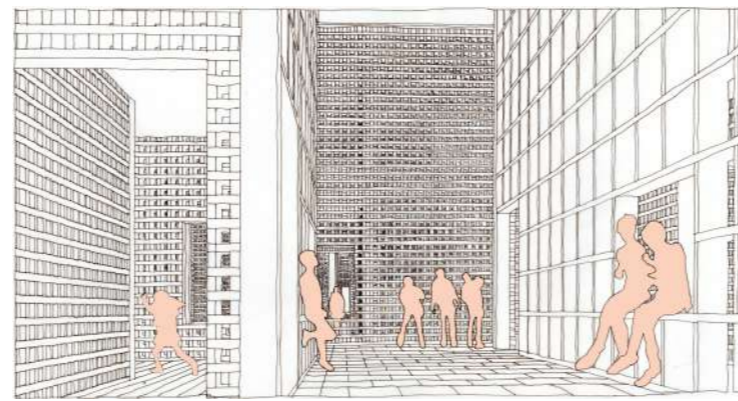
「向こう三軒両隣」というように、昔は近隣と親しく付き合うことが当たり前であり、住宅の境界も曖昧であった。

しかし、近年ではプライバシーや防犯という点で住宅の境界は強まり、近隣に誰が住んでいるかさえ分からない現状がある。

また、スマートフォンの普及や便利な SNS により、遠くの人ともつながりを持てるようになった現在、ますます地域的な関係性が希薄になっていくだろう。

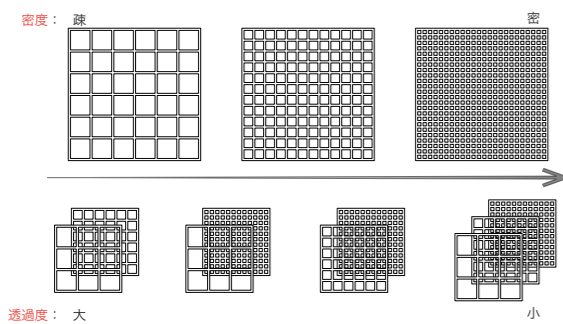
この現状には心理的や物理的や技術的などの様々な要因がある中で、建築的にはどのように関与していくことができるだろうか。

そこで、住宅の壁の主要な構成要素として「格子」を用い、「格子」の透過性を利用した程良い関係性を生むコミュニティが形成される住宅群を提案する。

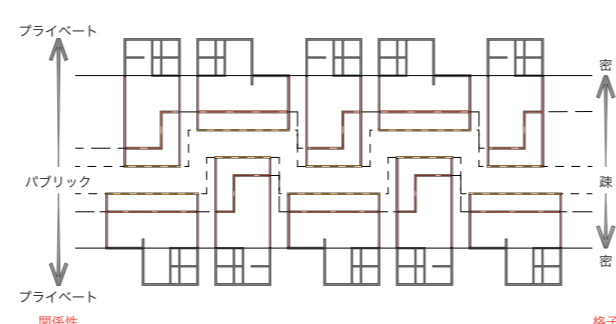


配置図 兼 一階平面図 Scale=1/300

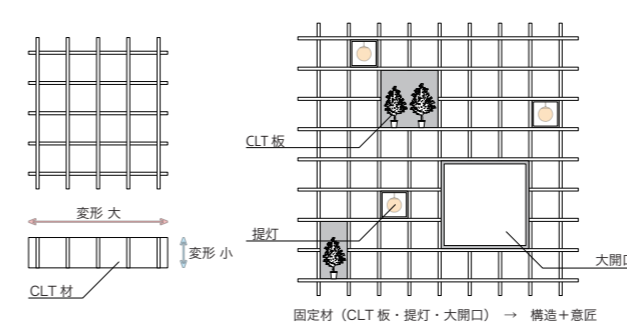
「格子」による 密度と透過性



「格子」による 密度と開放性



「格子」による 構造と意匠



「格子」による 光と空気

